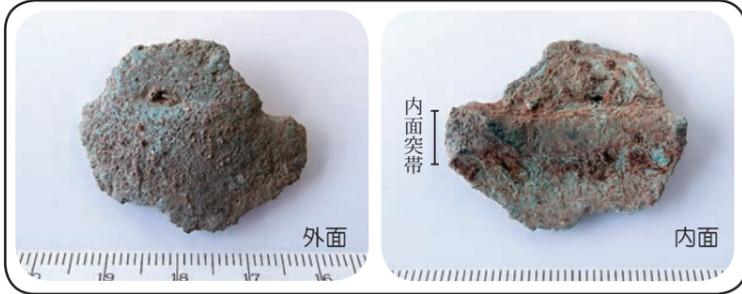


# まつばら たなか 松原田中遺跡の発掘調査

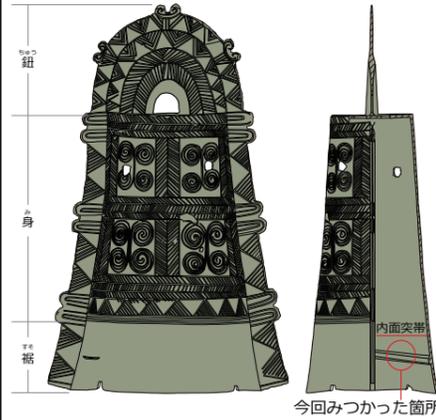
## トピック 銅鐸見つかる！！



銅鐸片 1 (ほぼ等倍)



銅鐸片 2 (ほぼ等倍)



銅鐸の各部名称

今回みつかった箇所

銅鐸は、弥生時代中期から後期にかけて使われた青銅製のマツリの道具で、「鐸」とは振り鳴らす鐘のことをいいます。銅鐸は時期によって形や大きさが変化していき、古いものは小型で音を鳴らした「(見て)聞く」銅鐸でした(菱環鈕式→外縁付鈕式→扁平鈕式)が、次第に大型となって「仰ぎ見る」銅鐸になった(突線鈕式)と考えられています。

松原田中遺跡の2つの銅鐸片は、身の内側に吊るした舌(棒状の製品)が当たって音を鳴らすための内面突帯があるので、裾部分の破片です。表面のわずかな凹凸や錆の特徴などからすると、「(見て)聞く」段階の銅鐸(外縁付鈕の新しい段階から扁平鈕式の古い段階)であると推測しています。

## トピック 青銅の腕輪

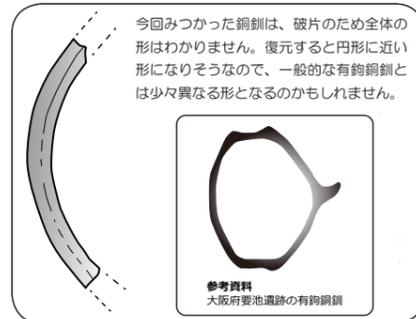
腕輪のことを「釧」と呼びます。松原田中遺跡3区では、古墳時代前期の土器とともに、右の写真のような銅釧がみつかりました。

銅釧は弥生時代の始まり頃から九州北部を中心に作られ、古墳時代まで使われ続けました。弥生時代の銅釧は、朝鮮半島に起源をもつといわれる「円環型銅釧」と、沖縄県周辺の海で採れる貝製の腕輪を起源とする「有鉤銅釧」の大きく2種類があるとされています。

松原田中遺跡でみつかった銅釧は、後者の有鉤銅釧の可能性があり、その場合、山陰地域では2例目となる貴重な事例となります。

なお、成分分析を実施した結果、錫>銅>鉛の順に量が多い、いわゆる「青銅製品」であることがわかっています。

青銅製品は当時としては最先端の技術で作られた貴重なもの。この松原田中遺跡は、湖山池の南岸に住んでいた人びとの中でも、中心的な立場の人が住んでいた場所だったのかもしれない。



3区でみつかった銅釧



金沢坂津口遺跡

3区

4区

盛土1区

松原田中遺跡から西側の丘陵をのぞむ(東から)



金沢坂津口遺跡6区では、弥生時代の初めころの川から、農作業に使ったと思われる「手箕」がみつかりました。

金沢坂津口遺跡3～6区では、弥生時代中期の水田がみつかりました。松原田中遺跡に住んでいた人たちが耕していたのでしょうか（写真は3区）。



3区では、弥生時代～古墳時代のもと考えられる穴（土坑）から青銅製の釧（腕輪）がみつかりました。



4区と盛土1区では、弥生時代に瀬戸内地方を中心に流行したマツリの道具である「分銅形土製品」がみつかりました。



南北方向に直線的に延びる溝の中からは、古墳時代前期の土器がたくさんみつかりました。



古墳時代後期以後のものと考えられる掘立柱建物が見つかりました。盛土1区の範囲では、東側が生活域となっていたようです。



- ① 桂見鍋山遺跡 (鳥取市桂見地内)
- ② 東桂見遺跡 (鳥取市桂見地内)
- ③ 良田中道遺跡 (鳥取市良田地内)
- ④ 松原田中遺跡 (鳥取市松原地内)
- ⑤ 金沢坂津口遺跡 (鳥取市金沢地内)

### 弥生～古墳時代の耕作地



3区と4区では土器を大量に含む層を掘り下げたところ、おびただしい量の遺構が見つかりました。たくさんあって大変!!

### 弥生～古墳時代の集落

- 銅鐸出土地点
- 分銅形土製品出土地点
- 銅釧出土地点
- 見学ポイント

### 松原田中遺跡とは・・・

公益財団法人鳥取県教育文化財団では、一般国道9号（鳥取西道路）の改築工事に先立ち、今年の5月から松原田中遺跡（鳥取市松原字中田中）の発掘調査を行っています。

松原田中遺跡は、湖山池の南西部の平地に位置しています。遺跡の西側を流れる湖山川の西岸には、現在調査中の金沢坂津口遺跡があり、弥生時代以降の水田跡等がみつっています。

松原田中遺跡は、平成22年度に2箇所の発掘調査が行われており、弥生時代から江戸時代につながる様々な遺構・遺物がみつかりました。また、2区から東側に広がる微高地上に弥生時代から古墳時代前期の集落跡が広がることが明らかとなっています。

今回の調査区はその東側にあたり、集落の中心部により近いとみられる部分を調査しています。

### 発掘調査でわかったこと

今回の調査では、多数の土坑や溝を検出しており、管玉製作にかかわる遺物をはじめ弥生時代から古墳時代の土器等が多く出土しています。

ところで、今回の出土遺物のうち、弥生時代から古墳時代にかけての他地域との交流を示す遺物が目立つ点が特筆されます。例えば、3区でみつかった銅釧は北部九州地方と、盛土1区でみつかった銅鐸は近畿地方とそれぞれ関連が強いとされています。また4区と盛土1区でみつかった分銅形土製品は瀬戸内地方との関連性がうかがわれ、盛土1区では北近畿（京都府北部・兵庫県北部）の土器がみつっています。また、各調査区で見られる管玉の素材である碧玉は北陸地方から、石器の素材であるサヌカイトや黒曜石はそれぞれ讃岐地方（香川県）、隠岐島からもたらされています。このように他地域との交流を示す遺物が多数みられることから、松原田中遺跡は、交流の拠点としての役割を担った集落であったと考えられます。

ウェルネス回廊さん 温泉入浴割引券  
 時間：午後5時まで  
 料金：大人：500円→400円  
 (100円引き)  
 子ども：300円→250円  
 (50円引き)  
 \*当日限り有効